

2011. 3. 21

災害時に強いアマ無線

工藤 善久 49歳

(大館市早口、自営業)

私は日ごろから、暇を見つけてはアマチュア無線を楽しんでいます。私のようなアマチュア無線愛好家のことを、総称して「ハム」と言います。

11日、ストープにあたり一服していたところに地震に遭いました。すぐに無線

機にスイッチを入れまし

た。非常時、携帯電話、テレビなどはほぼ駄目になりましたが、アマ無線はバッテリーがあればいつでも通信可能です。マイクに向かって通信を始めました。

自然災害などで公衆通信手段の利用が困難な場合にのみ、電波法の規定で、ア

マチュア無線の非常通信が認められています。そのため、愛好家は有事の際の訓練も積んでいます。

私は非常通信の際の周波数に合わせ、比較的被害の少ないと思われる北海道地域に援助を求める通信をしました。車に無線機の装備のある車両はすぐに分かっただと思います。

現代社会は何もかもがデジタル化され、無線などは時代遅れの産物となりました。しかし、このような時はいつでも通信できます。

今回の地震の際は、日本アマチュア無線連盟（JARL）が中心となり活動をしています。こんな時、アマ無線のありがたみが私自身もよく分かりました。

「ハム」人口は減っています。しかし、いつでも活動できるアマチュア無線は災害時に強いことを覚えてほしいと思います。